



\*~\*.....\*~\*

## ▼△トラブル急増！緊急駆け付けサービスにご注意を △▼

\*~\*.....\*~\*

「トイレが詰まった」「蛇口から水漏れが！」「鍵をなくして家に入れない」…。こうした際、ネット検索やポストに入っていたチラシにあったレスキューサービスの業者に、慌てて連絡する方も多いのでは。しかし解決を急ぐあまり、業者や契約内容について検討しないまま契約し、高額な請求をされるといったトラブルが急増しています。

### ◎「暮らしのレスキューサービス」とは？

「暮らしのレスキューサービス」は、水漏れやトイレの修理、鍵の修理・交換、害虫・害獣などの駆除、冷暖房設備の修理など、専門的な知識や技術がないと対処できないような、日々の暮らしの中で起きる様々な困った出来事の解決をしてくれます。

こうしたサービスは、火災保険に付帯されていたり、ホームセキュリティ会社などが提供している場合もあるため、いざというときはそれらを頼りにされる方が多い一方、困った出来事が発生してはじめてスマホやパソコンで近所の業者を検索して、早急に対応してもらえる業者を探す方も少なくありません。この業者選びには非常に注意が必要です。

近年、全国の消費生活センター等に寄せられる「暮らしのレスキューサービス」に関する相談が目立っています。

多くは「スマートフォンで検索をして一番上に表示された業者に依頼をした」「ポスティングのチラシで見た業者に依頼をした」という人で、相談で特に多いのが「トイレ修理」「水漏れ修理」「鍵の修理・交換」「害虫・害獣駆除」です。

### ●具体的なトラブルの事例

#### ・トイレ修理でのトラブル

トイレ修理で「390円から」のネット広告をみて依頼、通貫作業20万円前後、再発防止の薬剤と特殊な機械による清掃で15万円など、合計55万円の請求を受けた（40歳代、女性）

#### ・鍵の開錠でのトラブル

「最も高額な作業でも8,000円～」と書いてあったため依頼。鍵穴をみてすぐに「特殊な鍵だから8万円、シリンダー交換でさらに2万円かかる」と言われ、10万円も現金はないと言ったら5万円に減額された。家の鍵は特殊なものではなく、本当にシリンダー交換も必要か聞いたところ「争いたいのか。こちらはあなたの個人情報を知っている」と言われ怖くなり、作業に承諾し代金の支払いもしてしまった。（20歳代、女性）

また、作業が雑でずさんだったり、解約時にキャンセル料を請求されたり、クーリング・オフにに応じてもらえないケースもあります。

トラブルを防ぐには、インターネットやチラシの広告における表示価格や電話で説明された料金をうのみにしないことです。「業界最安値」などと記載されていても安易に飛びつかないようにしましょう。

契約をする場合はサービス内容や料金について十分に検討するようにし、複数社から見積もりを取り、業者の選定を慎重に行いましょう。

そして、サービス内容や料金に納得できない場合、業者に「すぐ修理しなければならない」などと急がされても、冷静になり、きっぱり契約を断るようにしましょう。

一番安心なのは、上述しました、火災保険に付帯しているサポートサービスを利用することです。今一度契約内容・サポートサービスについて、ご確認いただければと思います。

\*~\*.....\*~\*

## ▽△もともと神器だった箸△▽

\*~\*.....\*~\*

直木賞作家向田邦子さんのエッセイ「箸置」にあった話です。

向田さんの女友達で物書きの有能な人が仕事を少しずつ減らしていき、少しゆっくりしたいと言いだした。惜しいと思ってひきとめたら『箸置も置かずに、せかせか食事をするのが嫌になったのよ』と言われ、「自分は一人暮らしだが晩ご飯だけは箸置きを使っている。だが、夕刊をひろげながら口を動かしたりして、物の匂いや色をゆっくり味わうことはめったにない。これでは何にもならない」と、箸を休ませながら食事をするのが人間の暮らしだと悟らされたと言っています。

箸が日本で使われ始めたのは、推定で弥生時代～飛鳥時代とされています。7世紀に入ると、中国に渡った遣隋使が、箸を使った食事でもてなしを受けます。そこで、隋からの使節が日本に来た際、箸を使って食事をしたことを機に、箸が広まったと考えられています。やがて、箸は徐々に庶民の間にも浸透し、日本で独自の進化を遂げてきました。

初期の箸は人間が食事をするための道具ではなく、『神器』でした。最初は2本の棒状ではなく、ピンセットのような『竹折箸』で、神のお供え物を手で触れて汚さないように、箸が使われていたと推測されています。そして、箸置きは、神に捧げる食物をとる箸が汚れないように「箸の台」が使われたことがその由来だといわれています。ちなみに現在でも、伊勢神宮、出雲大社、春日大社などの伝統神事には、霊木で作った二本箸が箸台にのせられ、神饌（しんせん）とともに供えられています。

このように、箸はもともと神器でした。何かとあわただしい現代生活ですが、神聖な行為のための箸と箸置きを使って、食を味わうひと時を大切にしたいものです。

以上